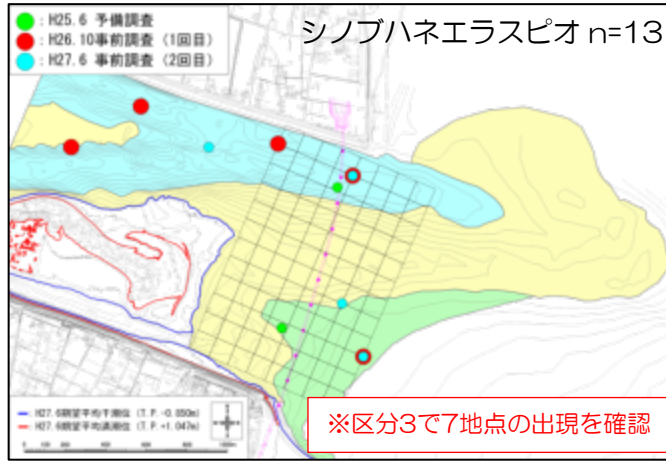
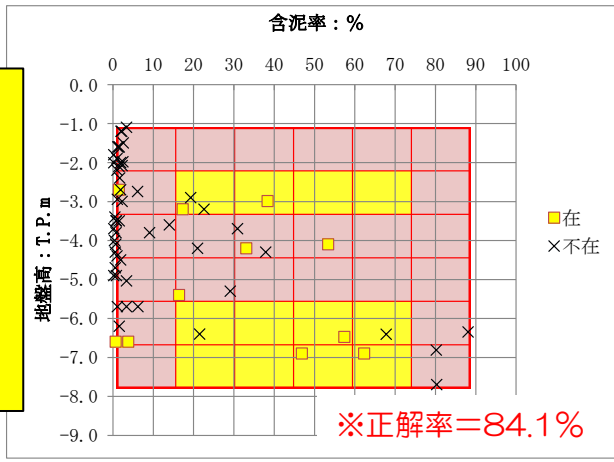


■底生動物のハビタット区分の検討⑬ ～ハビタット区分3の指標種のモデル化～

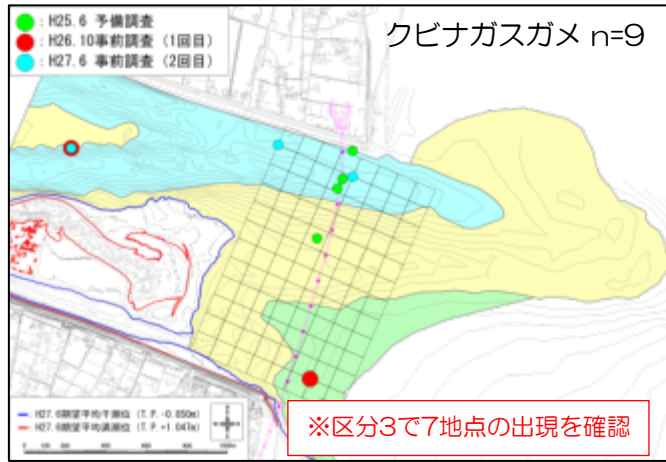
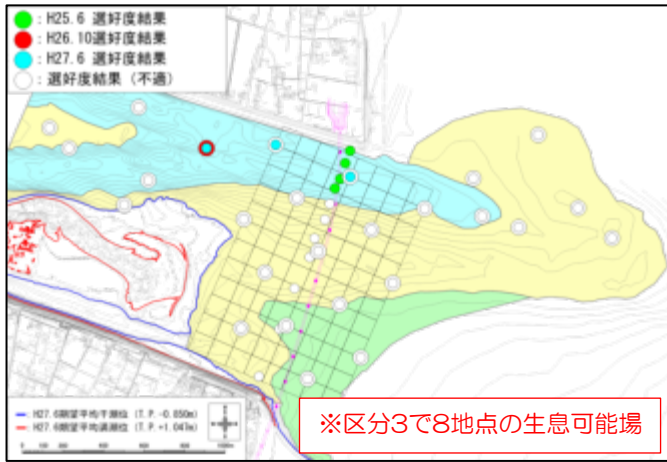
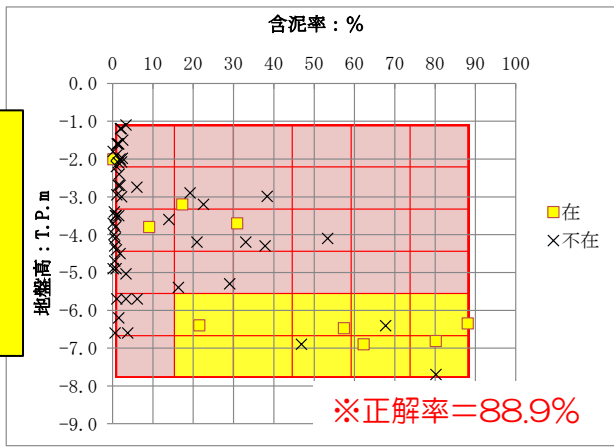


シノブハネエラスピオは、区分3で7地点確認されたことに対し6地点で生息が可能と評価され、クビナガスガメは7地点確認されたことに対し8地点で生息が可能と評価された。

シノブハネエラスピオ



クビナガスガメ



シノブハネエラスピオ：地盤高：T.P. -7.7m~-5.5m & T.P. -3.3m~-2.2m、含泥率：14.85%~73.45%、感度：45.5%、特異度：92.3%、正解率：84.1%
クビナガスガメ：地盤高：T.P. -7.7m~-5.5m、含泥率：14.85%~88.10%、感度：55.6%、特異度：94.4%、正解率：88.9%

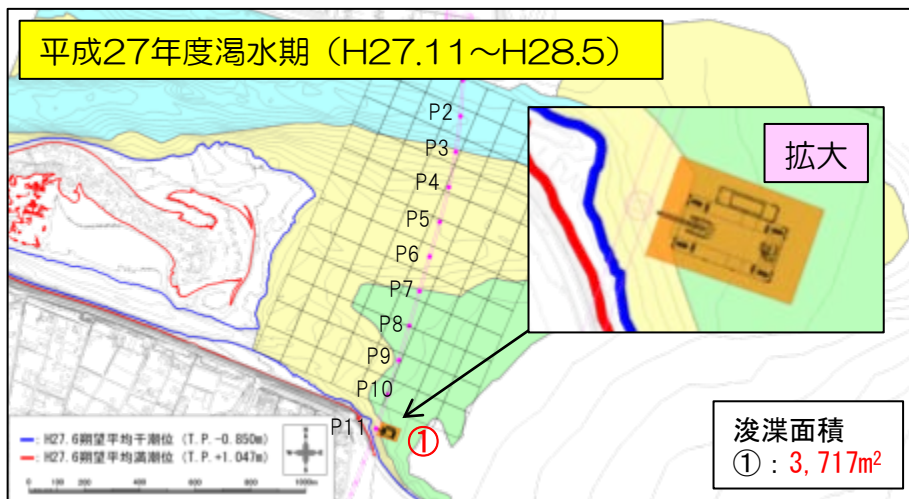


■底生動物のハビタット区分の検討⑱ ～浚渫範囲の確認～

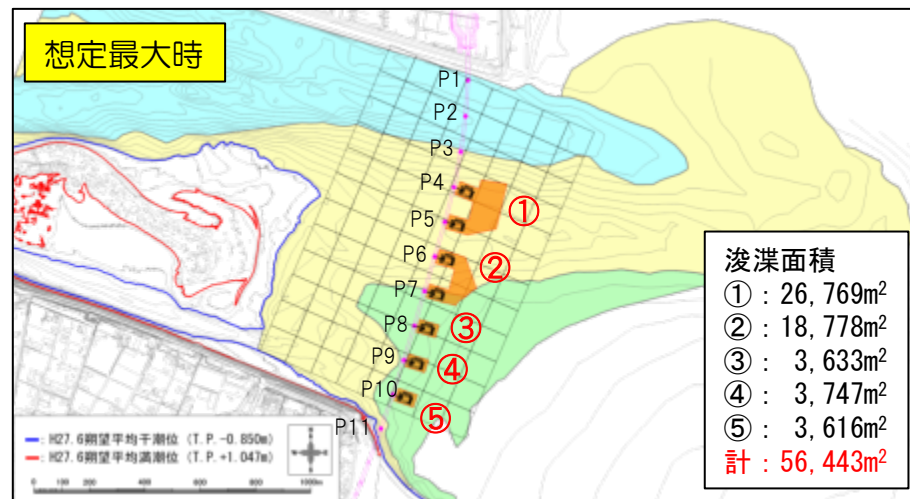


浚渫の影響を評価する前に、平成27年6月の地形図に基づく浚渫範囲を以下に示す。
 浚渫範囲は平成27年度濁水期(H27.11～H28.5)に**3,717m²**、想定最大時は**56,443m²**になることが確認された。

■STEP.4：浚渫の影響の定量化及び評価



平成27年度は、P11橋脚を対象に
 3,717m²になることが予想される。



想定最大時は、P4～P10橋脚を対象に
 56,443m²になることが予想される。

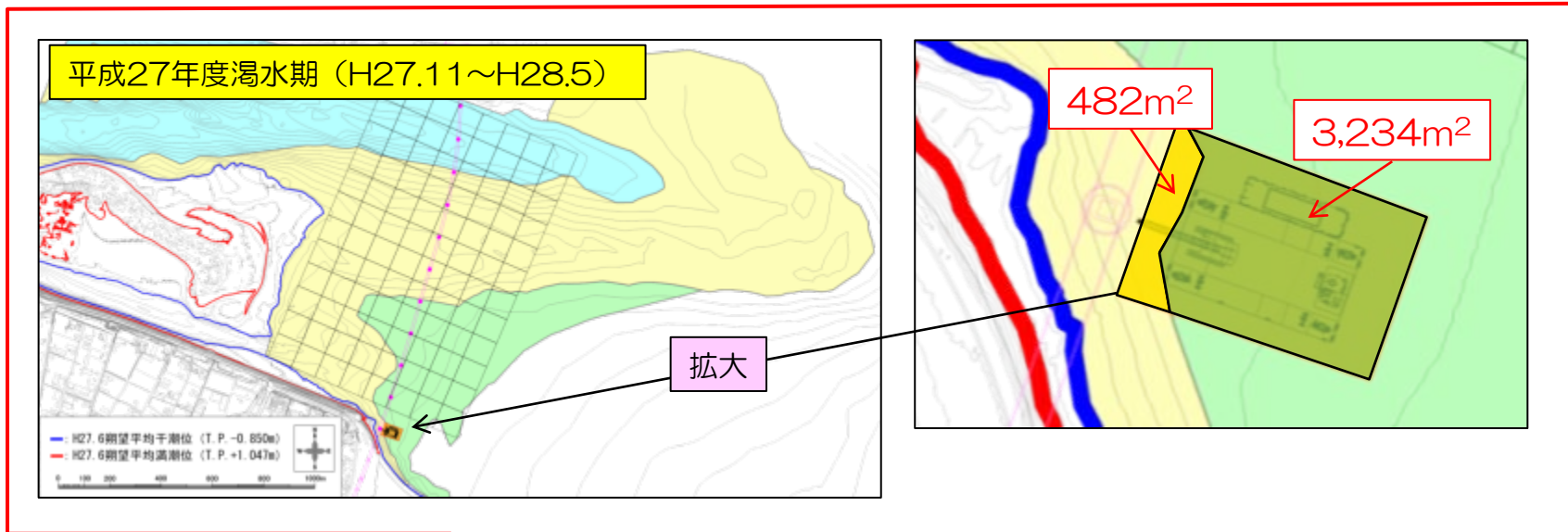
■底生動物のハビタット区分の検討⑱ ～各ハビタット区分に対する浚渫の影響評価～



次に、前述の浚渫面積をハビタット区分別に抽出し、各ハビタットに占める割合を算定した結果を以下に示す。

- ①いずれの工期でも**区分3に対して浚渫が生じない**。
- ②平成27年6月の地形に対して平成27年度濁水期がハビタット**区分1に対して0.03%、区分2に対して0.91%**になることが確認された。
- ③想定最大時が、ハビタット**区分1に対して2.49%、区分2に対して4.31%**の浚渫範囲になることが確認された。

例：ハビタット区分に対する平成27年度濁水期の浚渫範囲



区分	ハビタット面積 (m ²)	平成27年度濁水期		想定最大時	
		浚渫面積 (m ²)	割合	浚渫面積 (m ²)	割合
区分1	1,651,003	482	0.03%	41,056	2.49%
区分2	356,979	3,234	0.91%	15,388	4.31%
区分3	827,781	0	0.00%	0	0.00%
合計	-	3,717	-	56,443	-